

京都大学

## 北海道研究林で花観察会プチフラワーソンを実施

京都大学フィールド科学教育研究センター

北海道では道内全域で6月中旬に一般市民が植物の開花状況を一斉調査する「フラワー・ウォッチング・マラソン」略して「フラワーソン」と呼ばれるイベントが1997年から5年ごとに開催されています。似たようなイベントに、見つけた野鳥の数を競う「バード・ウォッチング・マラソン」略して「バードソン」がありますが、「フラワーソン」では植物の種数を競うのではなく、道内における植物の分布情報・開花情報を充実させ、経年変化を把握するとともに、北海道の自然の移りかわりについて一般市民と一緒に考えていく機会とし、環境保護に対する意識を高めるとともに、イベントを通じた地域間のつながり形成も主要な目的とされています。

京都大学北海道研究林では2022年に開催されたフラワーソン参加後、北海道研究林独自の取組としてプチフラワーソンと題した研究林内の開花調査を開催することとし、フラワーソンに準じた方法で2023年から毎年一般参加者を募って実施しています。北海道研究林には標茶区と白糠区があるため、毎年交互に実施することで、それぞれの開花情報を蓄積し、植物相とその経年変化をより詳細に把握するとともに、地域の人々に研究林について知ってもらえる機会となることが期待できます。



写真1：小さな花を観察する



写真2：標本作成風景

2022年のフラワーソン参加時には北海道研究林でも一般市民の参加者を募って標茶区で観察会を実施したため、2023年は白糠区で開催し、研究林スタッフが釧路管内から集まった9名の一般参加者とともに林道や川辺を歩きながら花を探し記録しました。林内は昨年職員が同じ時期に実施した調査と比較し、春の花は既に終わっている一方で、夏の花にはまだ少し早かったようで、花の種類が少なく、少し寂しい感じでしたが、64種の植物（開花55種）が確認されました。観察終了後には一般参加者に研究資料としての押し葉標本作製する体験もしていただき、これらの標本は研究林に蓄積していきたいと考えています。参加者からは「同じように見える植物でも何種類もあることに驚いた」などの感想が寄せられており、今後も足元の生態系を見守るきっかけとしての役割も果たしつつ、継続的に調査を続けていきたいと思えます。

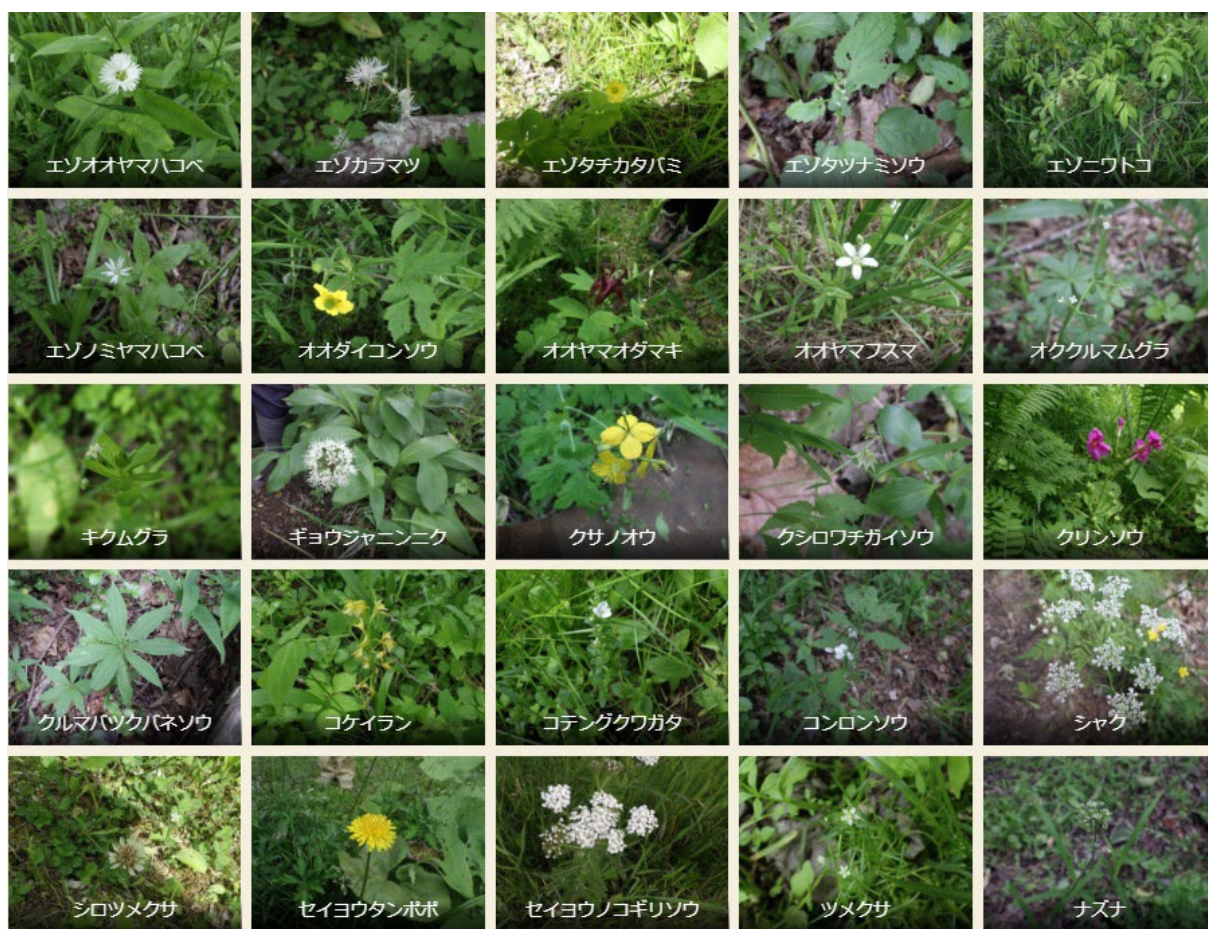


写真3：観察された花の一部